

学校、子育て、介護、ご近所等々、気軽にご相談ください。一人で、家族だけで抱えて悩んでいると迷路へ入ることも。あなたの「今」に間に合うように、我が事として解決策を共に考えていきます。ご相談に応じ専門家と連携します。



海津敦子新聞

あなたの「今」に間に合うように 子育て・教育、福祉の専門性をもってより良い文京区を

かいづあつこ 所属委員会 ◆ 文教委員会 / 自治制度・地域振興調査特別委員会 / 議会運営委員会 / 議会広報小委員会 / 意見書等調整小委員会

徹底的に区民目線で区政をチエック!

公的窓口一覧

予想もしなかった日々…
困ったときには相談を!

心のこと

東京都自殺相談 0570-087478

【東京都福祉保健局】
14:00～翌朝5:30(年中無休) ※都内在住・在勤・在学の方向け

LINE相談【相談はLINE@東京】

【東京都福祉保健局】
15:00～21:30(年中無休) ※都内在住・在勤・在学の方向け

こころの健康相談 0570-064-556

【厚生労働省】
9:00～12:00・13:00～17:00(月～金) ※全国共通



お金のこと

生活が困り苦しいとき 03-5803-1216

【生活福祉課相談係(シビックセンター9階)】
9:00～17:00(月～金 ※祝・休日を除く)

中小企業支援 03-5842-6731

【東京商工会議所文京支部(シビックセンター地下2階)】
10:30～16:30(月～金 ※祝・休日を除く)

税金・保険料の減免制度 03-3812-7111

【文京区役所代表から各種窓口へ】
8:30～17:15(月～金 ※祝・休日を除く)

新型コロナウイルスの影響で納税が困難なとき 03-5803-1156

【税務課納税係】 9:00～17:00(月～金 ※祝・休日を除く)

パートナー等からの暴力

03-5803-1216 【生活福祉課相談係(シビックセンター9階)】

9:00～17:00(月～金 ※祝・休日を除く)

0120-279-889 【DV相談+内閣府男女共同参画局】

24時間(年中無休)

03-5803-1945 【文京区配偶者暴力相談支援センター】

9:00～17:00(月～金 ※祝・休日、年末年始を除く)

03-3812-7149 【文京区男女平等センター相談室】

月10:00～16:00(受付～15:00)、水14:00～20:00(受付～19:00)
金10:00～20:00(受付～19:00)、(祝・休日、年末年始、全館清掃日を除く)

こどものこと

児童虐待の相談 03-5803-1109

【子ども家庭支援センター児童相談係(相談専用)】
9:00～17:00(月～金 ※祝・休日を除く)

189 【児童相談所全国共通ダイヤル】

24時間(年中無休)

教育相談 03-5800-2595

【文京区教育センター総合相談室】
24時間(年中無休)

いじめ相談 03-5800-2596

外国籍の方へ

困ったとき 03-3202-5535

【外国人総合相談支援センター】

9:00～16:00(月～金 ※年末年始・祝祭日及び毎月第2・4水曜日は休館)
英語・中国語(月～金) / ポルトガル語(月・火・水) / スペイン語(月・火・水)
インドネシア語(火) / ベトナム語(月・水) / タガログ語(金)

体調が悪くコロナ感染が心配なとき

受診相談 03-5320-4592

【東京都発熱相談センター】 24時間(年中無休)



コロナ禍 誰ひとり取り残さない区政を

区はうつ・自殺対策の予算を削減!?

コロナ禍で、仕事を失って経済的な問題を抱えたり、人との繋がりが断たれて孤独感が募ったり、家にいる時間が増えて家庭内暴力に苦しんだり、等々から心を病んでしまう人が増えています。

しかし区は、予算削減の理由として「自殺対策にかかる予算は、過去の実績に基づき必要な経費を計上している」と説明。コロナ禍で、児童生徒の自殺者数は過去最多、他の世代も増加に転じている中、自殺予防に関して「過去の実績に基づく予算計上」というのは、あまりにも危機意識に欠けた予算計上だと言わざるを得ません。

区は、必要があれば予算をつけるという考え方で、区内での自殺が増えたら予算を新たに付けるということなのか。大事なことは、そうならないようにどうするかです。相談窓口の人材を増員したり、支援機関の助成を拡充したり、個々の状況にあった相談・支援を十分に受けられる環境を新年度当初から整備して、予防策を拡充すべきです。

コロナ禍での終末期

出来ない理由は何もかもコロナのせい!?

多くの病院等は、感染予防を最優先に面会を一律に制限していて、会えたとしてもわずかな時間です。感染防止対策は、重要なことではあります。しかし、医学的に、命の時間がわずかであることがわかっても「面会」できないこと等には大きな疑問がわきます。人生の幕を下ろすときに、大切な人に見送られることすらできないのは、人の命の尊厳よりコロナ感染対策のほうが優先されてるようで、命を大切にするための感染対策であるはずなのに、と矛盾を感じます。

家族は、退院させて在宅で最後を家族で見送りたい、と思っても、どのような「覚悟」をすればよいのか迷うものです。終末期を在宅介護で進めるためには、どのようにすればよいのでしょうか。

住み慣れた場所で、最後の時を迎えるには、夜間(深夜)や早朝の対応という点でもまだまだ不十分です。家族介護を前提にした在宅介護にしないためにも、介護現場の働き手不足は深刻です。介護者の確保には、介護職の報酬などの待遇面をこれまで以上に手厚く、一人あたりの担当数を減らすなど、現場の声に耳を傾けた実態的な策が必須です。

困った時に安心して頼れる ～断らない相談支援を!～

行政への相談はかなりハードルが高いもの。それだけに行政は、見えていない困窮や孤立があることを常に認識すべき。さらに、一人の個別事例も潜在的には他の人にも当てはまるかも知れない、「わが事」につながるかもしれないと考えて相談にのると同時に、問題解決につながるよう制度・施策を生み出すことが必要です。

相談に来た人は様々な問題を抱え窓口を訪れます。それだけに、「〇〇の相談はいいけれど、他の相談はここでは受けられません」という対応はプロの仕事ではありません。求められるのは、相談で見えてきた複合的な問題も受け止め、他機関とつながり、動く「断らない相談支援」です。縦割り行政でたらい回しにするなど言語道断。

誰ひとり取り残さない地域社会を創るには、「公助」として「断らない相談支援」を根付かせ、本人の希望や願いに寄り添い、ともに動く「伴走型支援」が欠かせません。「公助」があってこそ「共助」「自助」が可能となる社会になるのだと思います。

外国籍の方への支援・配慮

文京区の人口は約22万6000人。外国人住民は約1万人です。当然、コロナ禍で悩みや不安を抱えている方もいます。日本語が不自由なく話せる方たちばかりではありません。

相談窓口では、英語での対応は主にされていますが、多言語への対応はこれからです。様々な相談を受ける行政情報センターでは、英語以外にも、中国語、韓国語、スペイン語、ポルトガル語に対応しています。さらには、対応可能時間が限られますが、ベトナム語、タガログ語、タイ語、フランス語、ネパール語、ヒンディー語、ロシア語、インドネシア語での対応をしています。なぜ、横ぐし刺して同じ対応をしないのか。多言語への対応を、区が実施するすべての相談で受けられるように求めています。

